

学習・発達論		講義	非常勤講師 新原 将義
科目カテゴリ	教職科目	科目ナンバリング	25200202

1. 授業のねらい・概要

この授業では、学習心理学・発達心理学の基礎知識だけでなく、我々の日常生活のなかにあふれる様々な事象から、「心理学化」された世界と我々の関係について考える。とくに、実験や身の回りの実生活を題材に「記憶」について考えること、学習研究の歴史をたどりながら学習と文化、社会との関係について考えること、アイデンティティ概念と生涯をととした発達プロセスについて考えることに取り組む。

またこの授業では、対面での開講が可能な場合、SNSを用いて教員と学生がリアルタイムでやり取りをしながら講義を進めていく。各自、スマートフォンを持参して授業に臨むこと。

2. 授業の進め方

講義及び演習。質疑応答の時間を設ける。

3. 授業計画

<p>1. 本講義の意義と目的：①教育心理学と学習・発達論について、②本講義のねらい</p> <p>2. 記憶とはなにか、生活のなかの記憶実践、当たり前の記憶実践、</p> <p>3. 道具とヒトのネットワーク、長期記憶の基礎知識</p> <p>4. エピソード記憶と道具</p> <p>5. 人々のネットワークと記憶、社会的に構成される記憶</p> <p>6. ネットワークと記憶の誤り、ネットワークを活用した記憶術、なぜ記憶力を高めたいのか？</p> <p>7. パプロフの条件反射研究、学習研究第1世代</p> <p>8. 行動主義の限界、学習研究第2世代、実践現場における認知</p>	<p>9. 環境との関係性の変化という学習、レイヴとウェンガーの「正統的周辺参加」研究</p> <p>10. 状況的学習論とは、コミュニティへの参加としての学習</p> <p>11. アイデンティティの社会・文化的側面</p> <p>12. パフォーマンス心理学への招待</p> <p>13. パフォーマンス心理学の実践</p> <p>14. 学校とパフォーマンス</p> <p>15. パフォーマンスと発達と政治</p>
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスや参考文献をもとに今回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を、1時間程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低30分程度は時間をかけて欲しい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

授業の各回において取りあげる基礎的かつ基本的知見を理解し、自己のものとする。

7. 成績評価の方法・基準

定期テストの結果（100%）を、評価の対象とする。定期テスト終了後に解説を行う。

8. テキスト・参考文献

授業で使用するテキストについては、授業内で購入の指示を行う。また参考文献については、都度レジュメに記載を行う。

9. 受講上の留意事項

4日以上の欠席者は定期試験の資格を失う。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。